

観音寺市ブロック

人が輝く 里山

— 文化は山から下りてくる —

■ 1日目 銭形砂絵見学 → 自己紹介・活動紹介 → 豊稔池ダム見学 → 水車見学 → 分科会交流会 → 夜なべ談義
□ 2日目 雲辺寺見学 → そば打ち体験 → 事例発表・ワークショップ → 金刀比羅宮見学

群馬県地域づくり協議会事務局 星野 千春

観音寺市ブロックでは19名の方が参加。観音寺駅からバスにて琴弾公園へと移動しました。到着後、早速琴弾山の階段181段を登ります。琴弾山は88箇所あるお遍路の68番目で、ずらりと並べられている石碑の中に紛れ、目立たなくなっている小さな石碑がその印であることをガイドさんが教えて下さいました。銭形展望台から銭形砂絵「寛永通宝」を見ることができます。寛永10年（1633年）に藩主生駒高俊公を歓迎するため一夜にして作られたといわれています。現在では通信機で指示をして砂絵を直しているそうですが、当時は通信機も拡声器も無いので、通達役がいたのではないかとことです。

五郷活性化センターにて、五郷の皆様と参加者が一言ずつ挨拶、市長や元村長の歓迎のお言葉をいただき、バスにて豊稔池ダムへ移動。山道でバスは入れないので途中からダムまで徒歩で移動しました。豊稔池は日本に2基しかないマルチプルアーチダムで、放水箇所は5つあり、向かって一番右のみ手動で放水することができます。他4箇所は池に水が溜まると自然放水するようになっています。よく4基全てから放水する日はいつかと聞かれるそうですが、台風などの災害がこない限りは4基全てから放水されることはないとのこと。

この日は左の1箇所から少し放水されている状態で、底桶に移動することができ、真下から上を仰ぎ見るという貴重な体験をすることができました。また、階段を上ると溜めている池を一望することもできます。

五郷のシンボルである五郷水車にて、かつて香川県には384基もの水車を至る所で見ることができましたが、多くの水車が廃止されることが無くなりました。そんな中、少子高齢化の進む五郷地区の活性化を目指して平成23年「五郷里づくりの会」が発足。五郷活性化のシンボルとして水車の建設に取り組み、平成26年5月に完成。水車を回すには4mの落差が必要で、上流約300mもの地点に取水口があり、パイプを通して水を水車に落とし、そのエネルギーで回す構造となっているとのこと。小屋には精米用と精麦用の臼が設置されています。



五郷活性化センターにて交流会前に、外の駐車場にて龍王太鼓を披露してくださいました。太鼓の音が空に響いて、とても素晴らしい演奏でした。交流会では、米粉で作ったこもけだんご汁、ナスの辛子漬け、地元産タマネギを使用した肉じゃが、地元産イノシシの串焼き、瀬戸内魚の刺身、地元産の梨と葡萄、地元産の梨を使った梨ジュース、それと、群馬から種を貰ってつくったというこんにゃくのお刺身、こちらではぼん酢とわさびで食べられていました。

2日目はお遍路66番目の雲辺寺へ、徒歩で山を登ることも出来るとのことですが、この日は途中まで雲辺寺ロープウェイに乗って移動しました。ロープウェイを使用しても15分程掛かるので、徒歩だとかなり厳しい登山だろうなと思いました。

五郷活性化センターにて、五郷水車でついた蕎麦粉を使い、蕎麦打ちをしました。手早くつくらないと香りが飛んでしまうとのことでしたが、自分の班は水の分量が多かったらしく、粉を足して作り直していたので少し遅くなってしまいました。細く切るのも難しく、かなり太い蕎麦もありましたが何とか形にすることが出来ました。昼食では、手打ち蕎麦の他に、五郷産の水車米を使用したバラ寿司、ナスとエビ天の煮びたし、コンニャクの白和

え、イタドリ（五郷に自生している草）の甘酢漬け、割り干し大根のハリハリ、夕食にも出たデザートとジュースをいただきました。昼食後は、6班に分かれてワークショップを実施、3つをテーマに各班内で話し合い、まとめて発表をしました。

- 郷土料理を次世代にどのように伝承、発揮させていけば良いか
- 地域の人々が地域活動の魅力を発見するには？
- 情報発信、各種イベントの参加案内の方法について工夫している点

世代間交流を通して、子ども達との食育講座をする。配信媒体でレシピを公開し、知ってもらおう。イベント・会場で地域を知ってもらおう。SNS等も大事だが、使用しない人もいるので、新聞・交流サイトの活用なども必要。イベントの目的に合った場所へ配信する。等色々出ましたが、今までの活動を「継続すること」が大事ではないかとまとめました。

さぬきのこんぴらさんの名で親しまれている金刀比羅宮へ、奥社まで登るには時間が無いということで、途中の御本宮まで登りました。以前は駐車場や表参道では強引な客引きがあり、危険なのと、逆にお客さんが来なくなってしまうとの懸念から、しないようお願いして回ったとのこと。今ではそのようなこともなくなり、気持ちよく登ることが出来ました。

平成の大合併で五郷という名は無くなってしまったとのことですが、それでも五郷の地域を盛り上げようと頑張っている皆さんの姿を見ることが出来ました。